

付録 7

なぜ私たちは創造されたのか？

私たちがこの世界にいるのは、かつて恐ろしい罪を犯したからであり、この人生は、自分自身を贖（あがな）い、その罪を否定し、神の王国に戻るためのチャンスなのである。

すべては数十億年前、「天の社会で争いが生じた」時に始まりまった（38:69）。高位の被造物の一人であったサタンが、神から与えられた力によって自分は神に並ぶ神になる資格があるという傲慢な考えを抱いた。こうして彼は神の絶対的権威に挑んだ。サタンの考えは冒涇的であっただけでなく、間違っていた。神のみが、他に誰も持たない「神であるための資格と能力」を備えているからである。サタンの冒涇の結果、天の社会に分裂が起こり、神の王国のすべての構成員は以下の4つのカテゴリーに分類された。

1. 天使：神の絶対的権威を支持した被造物。
2. 動物：悔い改めて神の王国に再入場するという神の申し出を受け入れた反逆者たち（動物、樹木、星々など）。[序文より]
3. ジン：サタンに同意し、彼が「神」になる能力があると認めた被造物。
4. 人間：決心がつかなかった被造物。彼らは神の絶対的権威を断固として支持することに失敗した。

最も慈悲深いお方

天使たちは、神がご自身の絶対的権威を支持しなかった被造物たちを追放することを期待していた（2:30）。しかし、神は最も慈悲深いお方である。神は私たちに自らの過ちを否定する機会を与えることを決め、天使たちには、彼らが知らないことを神は知っているのだと告げられた（2:30）。神は、一部の被造物には贖（あがな）いの機会が与えられるべきであることを知っていたのである。

もしあなたが「飛行機を操縦できる」と主張するなら、その主張をテストする最良の方法は、あなたに飛行機を与えて実際に飛ばさせてみることだ。これこそが、サタンの主張に対して神が行うと決められたことだった。神は7つの広大な宇宙を創造し、その後、天使たちに「地球」と呼ばれる小さな塵の上でサタンを「神」として任命することを知らせた（2:30）。サタンを一時的な「神」として任命することに関連するコーランの記述（36:60）は、以前の聖典の内容を裏付けるものです。

神の計画は、まず死を創造し（67:1-2）、それから人間とジンをこの世界に連れてくることだった。こうして彼らは、いかなる偏見もなくゼロから再出発し、神の絶対的権威を支持するか、あるいはサタンの多神教的理論を支持するか、完全な自由を行使することになります。この極めて重要な決断を下すために、すべての人間は、神の絶対的権威を説く神からのメッセージと、多神教的原則を押し付けるサタンからのメッセージの両方を受け取る。

ルシファーよ、おまえは心の中でこう言った。

「私は天に登り、
神の星々よりも高く
私の玉座を据えよう。
北の果てにある
集会の山に座し、
雲の頂よりも高く昇り、
いと高き方のようになろう！」

〔イザヤ書 14:13-15〕

次に悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、
この世のすべての王国とその繁栄を見せて、こう約束した。

「もしおまえがひれ伏して私を崇めるなら、
これらすべてを授けよう。」
これに対してイエスは言われた。

「去れ、サタン！
聖書にはこう記されている。

『汝の主なる神を崇めよ。
ただ神のみを礼拝せよ。』」

〔マタイによる福音書 4:8-10〕 および〔ルカによる福音書 4:5-8〕

私たちに有利なスタートを切らせるために、慈悲深いお方は、私たちをこの世界に送る前に全人類を御前に集めた。そこで私たちは、神のみが私たちの主であり支配者であることを証言した（7:172）。したがって、神の絶対的権威を支持することは、すべての人間に不可欠な一部として組み込まれた自然な本能なのである。

反逆者たちを死に至らしめた後、人間とジンの魂は特別な保管所に置かれた。その後、神は試験期間中にジンと人間の魂を収容するための適切な肉体を創造された。最初のジンの体は火から作られ、サタンがその体に割り当てられました（15:27）。最初の人間の体は地上の物質である泥から作られ（15:26）、神は最初の人間の魂をその体に割り当てた。神の計画では、天

使たちが地上の人間を助けること——彼らを守り、風雨を操り、糧を分配することなど——が定められていた。この事実はコーランの中で寓意的にこう述べられています。「あなたの主は天使たちに言われた。『アダムの前にひれ伏せ』」。もちろん、サタンは人類に奉仕することに関わるのを一切拒否した（2:34, 7:11, 17:61, 18:50, 20:116）。

アダムの体は地上に留まっていたが、真の人物である「魂」は、最も外側の宇宙にある天国へと入れられました。神はアダムに、禁断の木に象徴される特定の戒めを与え、サタンはアダムにサタンのメッセージを届けるための「同伴者」として任命された。あとの経緯は歴史が示す通りである。

人間が生まれるたびに、魂の保管所から一人の人間の魂が新しい赤ん坊に割り当てられる。神はご自身の知識に従って魂を割り当てる（28:68）。すべての魂は、特定の肉体に割り当てられ、特定の環境下で生きるに値する。どの魂が善で、どの魂が悪であるかは神のみぞ知ることである。私たちの子供たちは、神の計画に従って私たちの家庭に割り当てられている。また、サタンの視点を代表するために、独立したジンの魂も新しい人間に割り当てられる。ジンの物理的な肉体は親のジンから複製されるが、ジンの「魂」は独立した個人のものです。ジンはサタンの子孫である（7:27, 18:50）。割り当てられたジンは、出生から死まで人間と共にあり、審判の日には主要な証人として仕えます（50:23）。私たちの頭の中では、両者が一つの視点に納得するまで、人間の魂とジンの魂の間で絶え間ない議論が行われるのである。

原罪

一般的な信仰に反して、「原罪」とはアダムが禁断の木の実を食べて神の法を犯したことではない。原罪とは、「天の社会での大争闘」の際に、私たちが神の絶対的権威を支持できなかったことである。もしその人間が、自分のパートナーであるジンを説得してその原罪を否定させ、神の絶対的権威を支持させるなら、両方の被造物は審判の日に神の永遠の王国へと贖われる。しかし、もしジンの同伴者が人間を説得してサタンの偶像崇拜的な見解を支持させるなら、両方の被造物は神の王国から永遠に追放されます。

自らの見解を広めるために、サタンとその代理人たちは、ムハンマド、イエス、マリア、聖者のような無力な被造物の偶像化を推奨する。私たちはもともと多神教的な傾向を持っていたためにここにいるので、私たちの多くはサタンにとって容易な獲物である。

「神」としてのサタンの無能さは、彼の支配領域（この世）全体に蔓延する混乱、病気、事故、悲惨、戦争によってすでに証明されている（36:66）。一方で、サタンを否定し、神の絶対

的権威を支持し、イエスやムハンマドのような無力な死者を偶像化することを拒む人間は、神の保護下に戻されます。彼らはこの世、そして永遠に完璧な人生を享受するのです。

この世での私たちの生活は、自分たちの多神教的な考えを暴き出すために設計された一連のテストであるため、偶像崇拜は唯一の許されない罪である（4:48, 116）。この世は、神の絶対的権威を支持するか、サタンの偶像崇拜的な見解を支持するかという私たちの決断を表明するために、神聖に設計されている（67:1-2）。昼と夜が絶えず入れ替わるのは、夜明けの礼拝を守り、最も暑く長い時期に断食を行うことで、神の法を守る意思があるかどうかをテストするためである。神の絶対的権威を完全に確信している者だけが、贖われるのである（26:89）。